

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 大正区
学校名 大阪市立平尾小学校
学校長名 飯塚 博恭

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動をご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・平尾小学校では、第6学年58名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率を全国と比較すると、国語－9.2%、算数－19.5%となり、いずれも下回っている。令和3年度は全国平均との差が国語－12.7%、算数－14.2%、令和4年度は国語－9.6%、算数－3.2%、理科－12.3%であり、本校が令和2年度より研究に取り組んでいる教科の国語科において、少しずつではあるが確実に全国との差は縮まっている。しかし、算数においては、成果が表れていない。

教科に関する調査より 各教科において全国・大阪府の平均正答率を下回っている問題が多いが、以下の点については成果が見られる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】問題2三 “「情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る」”、問題2四 “文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかを見る”、さらに問題3二 “「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考え方と比較しながら、自分の考えをまとめができるかどうかを見る」”において、全国・大阪府の平均正答率を上回った。これは、本校で昨年度から学力向上と密接にかかわる国語科指導の研究に取り組み、特に教材文分析に注力していることや、大阪市取組施策の学力向上支援チーム事業の成果が表れていると考えられる。

【算数】問題1(1) “「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかを見る」”では、全国・大阪府の平均正答率にあと6%程にせまる結果となった。これも、教員による授業改善と大阪市取組施策の学力向上支援チーム事業の放課後学習を開始した成果が表れていると言える。

質問紙調査より

「(9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」、「(12) 学校に行くのは楽しいと思う。」の質問項目において、肯定的な回答が、全国・大阪府の平均正答率とほぼ同じもしくは上回る結果となった。これは、大阪市取組施策の「ブロック化による学校支援事業」での学びサポーター、生活指導支援員等の人的支援も活用し、あらゆる教職員により子どもに繰り返し達成感と所属感を味わわせる指導を積み重ね、子どもの自己肯定感を高め、何事にも前向きに取り組む姿勢を育ててきた成果である。

なお、「(5) 先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか。」「(8) 人が困っているときは、進んで助けていますか。」「(10) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」「(12) 学校に行くのは楽しいと思いますか。」

「(57) 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業についてしたいと思いますか。」においても肯定的な回答が全国平均を上回った。

今後の取組(アクションプラン)

- ・今後も子どもに繰り返し達成感と所属感を味わわせる指導を積み重ねることで、子どもの自己肯定感を高め、何事にも前向きに取り組む姿勢を育っていく。また、学習規律の指導をさらに進める。
- ・国語科を中心とした主体的・対話的で深い学びの指導法についての研修を計画的に推進する。
- ・ICT支援員の学校訪問を活用する等、ICT機器環境を充実させ、学習効果を高める。
- ・主幹学校司書が今年度からサポーターを兼務し週5日配置され、学校図書館開放や読み聞かせの機会が増加した。これを基盤に、さらに子どもたちが本を読みたいと思う読書環境を整え、一人当たりの読書量を増加させるようにする。

【 全体の概要 】

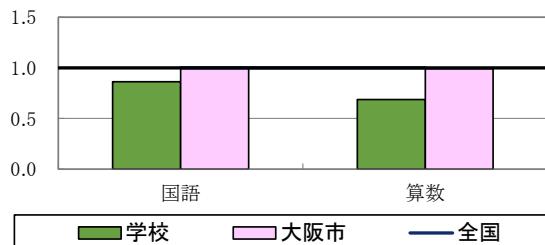
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	58	43
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

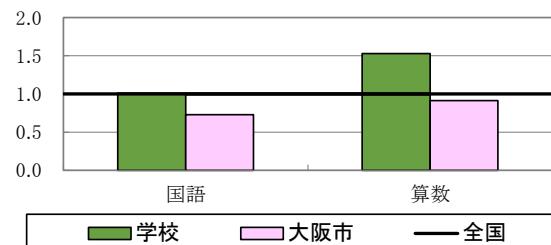
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	4.9	5.2
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



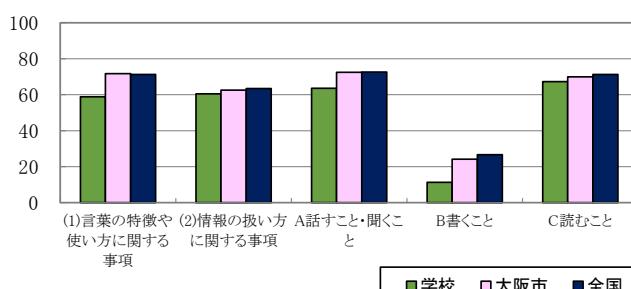
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	58.9	71.7	71.2
(2)情報の扱い方にに関する事項	2	60.4	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	63.5	72.4	72.6
B 書くこと	1	11.3	24.2	26.7
C 読むこと	3	67.3	69.9	71.2

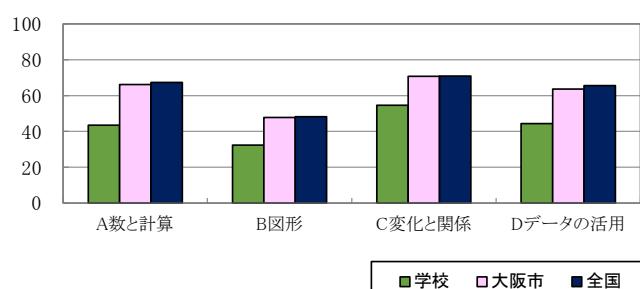
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	43.5	66.1	67.3
B 図形	4	32.4	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	54.6	70.8	70.9
D データの活用	3	44.4	63.6	65.5

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



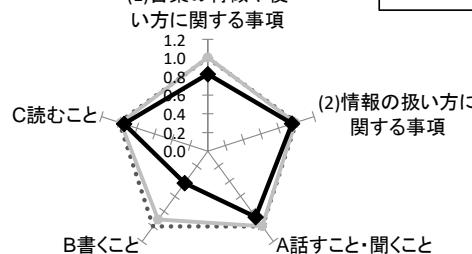
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)

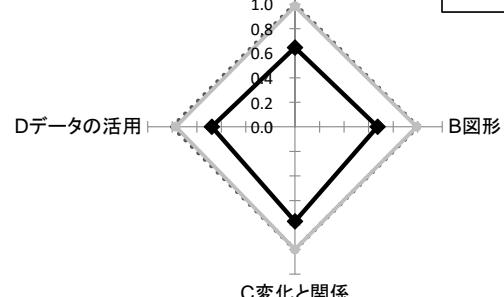
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項

..... 全国
— 大阪市
— 学校



算数 領域別正答率(対全国比)

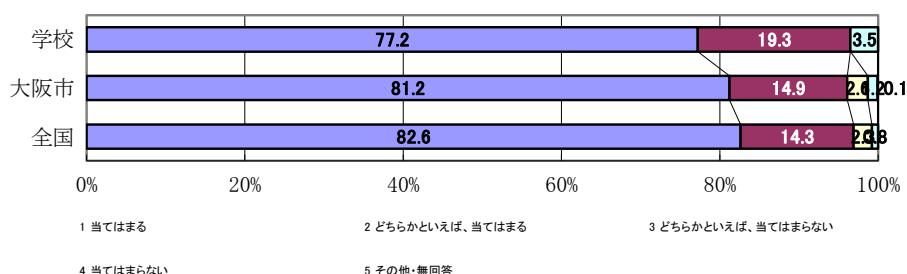
..... 全国
— 大阪市
— 学校



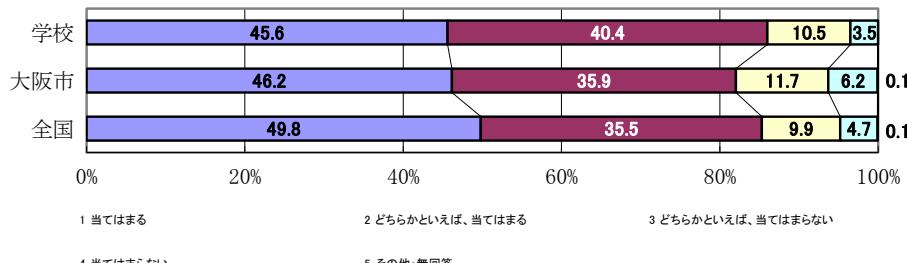
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

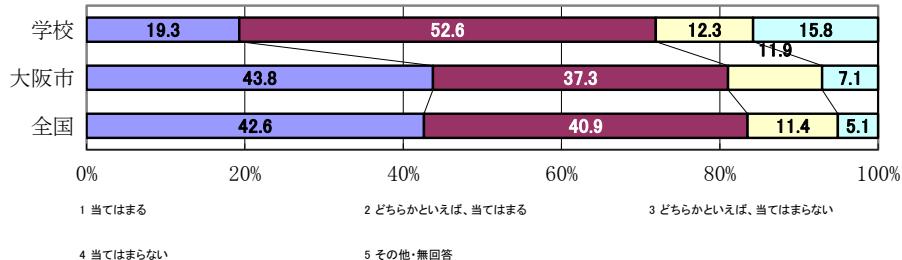
質問番号
質問事項
9
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思う



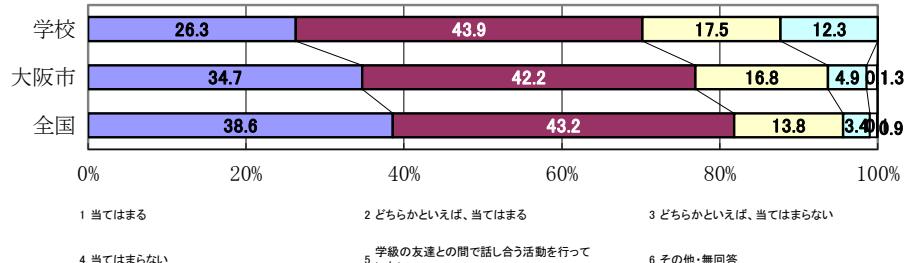
12
学校に行くのは楽しいと思う



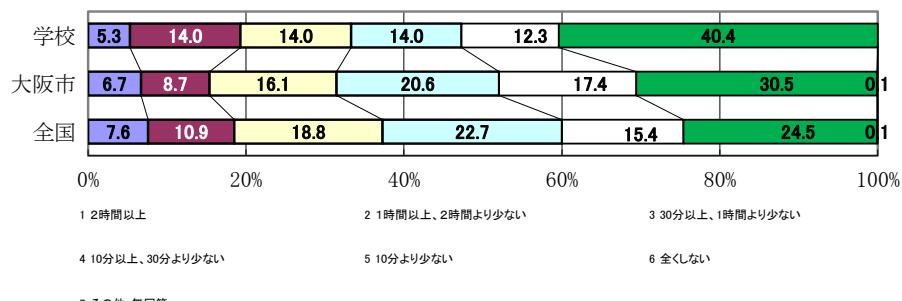
4
自分には、よいところがあると思う



36
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか



20
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)



学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

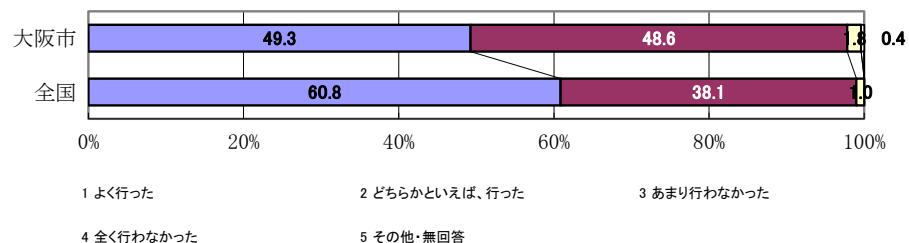
質問番号

質問事項

13

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

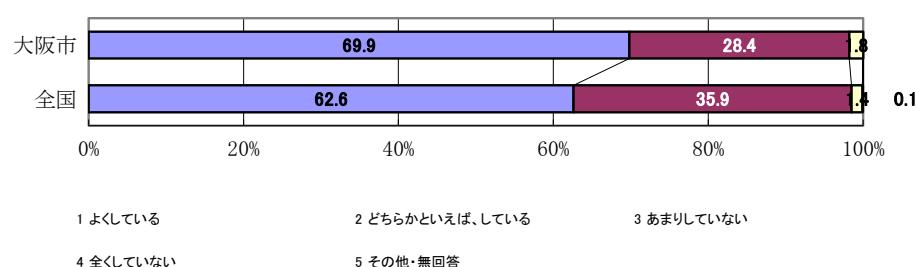
学校 「よく行った」を選択



22

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている

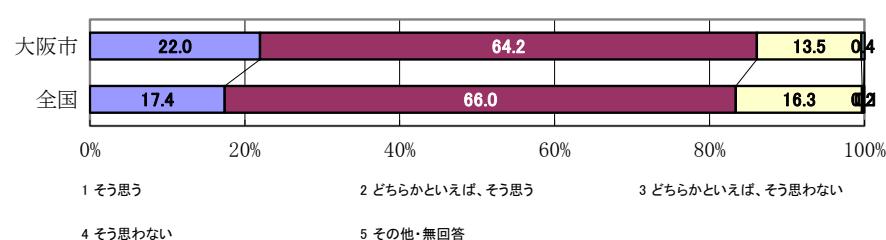
学校 「よくしている」を選択



29

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができます

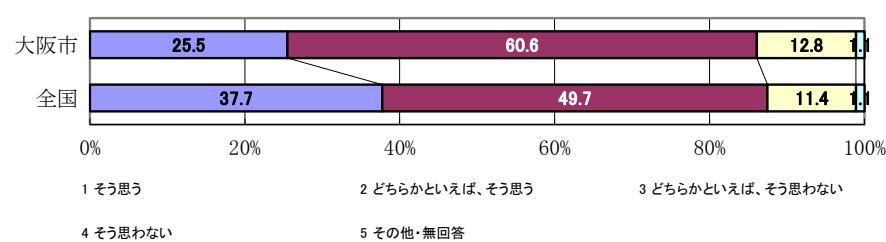
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



54

コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



72

保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか

学校 「参加している」を選択

